

大会宣言(案)

神奈川県建設労連第55回定期大会は、「100年に一度」といわれる激動・激変の情勢の中で開催された。アメリカ発カシノ経済の破綻は、またたく間に全世界を同時株安・信用不安の嵐に巻き込み、世界恐慌ともいえる事態を引き起こした。アメリカ追従一辺倒の日本経済は、その直撃を受け「新自由主義路線・構造改革路線」は劇的な破綻をしめし、アメリカ追随・大企業本位の経済システムの転換を求める声が大きく広がってきている。かつての保守基盤であった漁業従事者・農業従事者・医師会などが闘いに立ち上がり、大企業職場では派遣労働者が労働組合をつくり、私たちの要求闘争と合流し、政治を揺り動かしつつある。

神建連は、仕事不足・賃金単価の切り下げ・未曾有の建設不況の中で、情勢を攻勢的に打開するために、団結して闘いに立ち上がってきた。7・23対県交渉、9・30総決起集会を契機に、自治体・国への「仕事よこせ運動」を展開し、「公共工事前倒し発注」「小規模工事発注拡大」さらには、国の「長期優良住宅関連予算」を獲得するなど仲間の仕事確保で大きな成果を勝ち取ってきた。建設国保を守る運動でも、後期高齢者医療制度による保険料引き上げを乗り越え、建設国保加入者減を最小限にとどめて「全国一の建設国保」を守り抜いた。さらに組織拡大では、きわめて困難な情勢の中でも全国一の実増を達成し、「6万神建連」へ大きく接近した。また、昨年6月に提訴した「建設アスベスト訴訟」は、東京地裁の闘いと連動しつつ、原告が法廷をリードし1周年を向え、勝利への道のりを着実に歩んでいる。

私たちは、建設労働者・職人の生活と仕事を守るため、組織と運動の前進に向けた、新しい一年間の運動方針を満場一致で確認した。本大会後に必ず行われる総選挙は、仲間のいのちと営業を守る要求実現の絶好のチャンスと位置づけ、神建連の方針・要求にかなった勢力を大きく躍進させるために奮闘する。

私たちは、本大会にて「6万5千人をめざす第2次3ヵ年計画」を策定した。新年度で6万人の組織を達成し、要求運動の前進と政治の転換によって、仲間の仕事、暮らし、平和を守りぬくことを大会参加者の総意として宣言する。

2009年6月8日

神奈川県建設労働組合連合会
第55回定期大会